

端島炭坑



平成 26 年 6 月 長崎 市

1. 端島の位置

➤ 端島は、長崎港から南西約 18 km の沖合いに位置し、南北に約 480m、東西に約 160m、周囲約 1,200m、面積約 65,000 m² の小さな海底炭坑の島である。

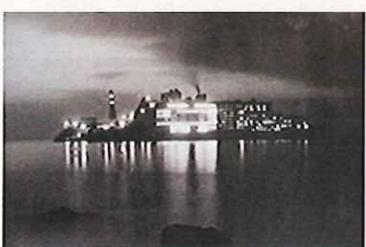


2. 端島の歴史



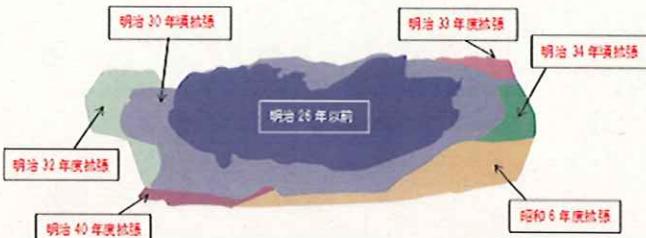
煙をはく端島 1910(明治 43)年
[長崎歴史文化博物館所蔵]

- 1810 年頃に石炭が発見され、1870 (明治 3) 年に天草の小山秀 (こやまひいで) により石炭採掘を開始。
- 佐賀藩鍋島氏の手に移ったのち、1890 (明治 23) 年に隣の高島と同じく三菱の経営に移行。
- 端島の良質な石炭は、主に八幡製鉄所の製鉄用原料炭として供給された。



端島夜景 1973(昭和 48)年
[長崎歴史文化博物館所蔵]

- 現在の端島は、岩塊が切り立った小島の周囲を 6 次にわたる埋め立てにより形成。
- 1891 年の本格操業以降、採掘現場は海面下 1,000m に到達した。



- 2 -

3. 端島の歴史的意義

- 近代炭坑の島としての形成から閉山、そして風化に至る過程を見ることができる産業遺産
(高島炭鉱跡の史跡指定意見具申(H26.1)の記述)

4. 端島の構成要素の整理

- 生産設備 産業遺跡としての本質的価値を示す構成要素 (主に島の東側)
- 護岸遺構 産業遺跡としての本質的価値を示す構成要素
- 居住施設等 産業遺跡としての本質的価値に密接に関連する要素 (主に島の西側)
(高島炭鉱調査報告書(H26.3)の記述)

5. 構成要素の現況

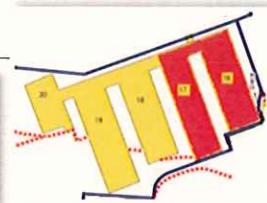
- 生産設備 建物については劣化が進行
設備は搬出されており現存せず
- 護岸遺構 劣化が進行
一部の護岸は崩壊の恐れあり
- 居住施設等 劣化が進行
一部の建物は崩壊の恐れあり



6. 整備費用の概算

- 目視、材料調査等による劣化状況から保存方法を仮検討
- 建物外観面積に工事単価を乗じて簡易積算
- 具体的な保存方法や詳細積算は整備活用計画にて実施予定（～H27 年度）

パターン	整備の対象	簡易積算額
1	護岸及び生産設備のみ	11.0 億円
以下、「護岸及び生産設備」に加え、		
2	16 号棟、17 号棟 （代表的な居住施設として優先度が高いもの）	25.7 億円
3	16 号棟、17 号棟 （代表的な居住施設として優先度が高いもの） 3 号棟、65 号棟、70 号棟 （端島の景観形成に貢献している居住施設）	50.2 億円
4	現存する全ての居住施設（32 棟）	151.1 億円
5	現存する全ての居住施設（32 棟） 失われた居住施設の復元（4 棟）	158.0 億円

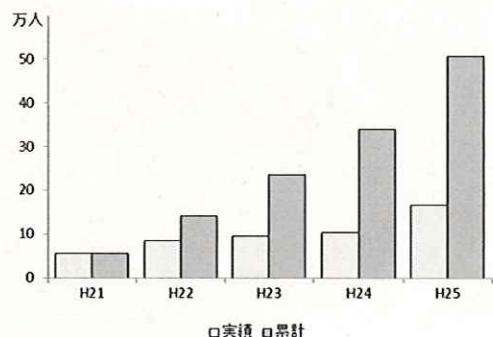


- 4 -

7. 端島上陸者数の推移

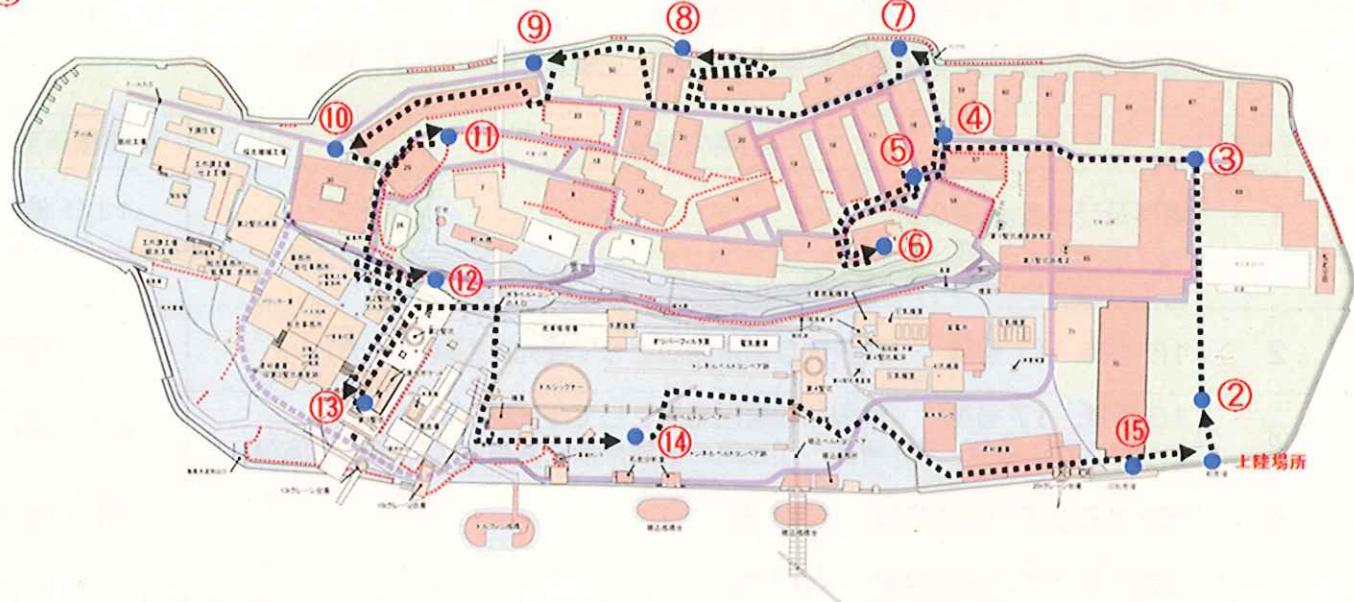
- 軍艦島上陸ツアーは船会社 5 社が運航
- 平成 25 年度末で累計 50 万人を突破
- 県外観光客が 9 割

年度	上陸者数	累計上陸者数
平成 21 年度	55,289 人	-
平成 22 年度	84,970 人	140,259 人
平成 23 年度	95,939 人	236,198 人
平成 24 年度	103,024 人	339,222 人
平成 25 年度	167,342 人	506,564 人



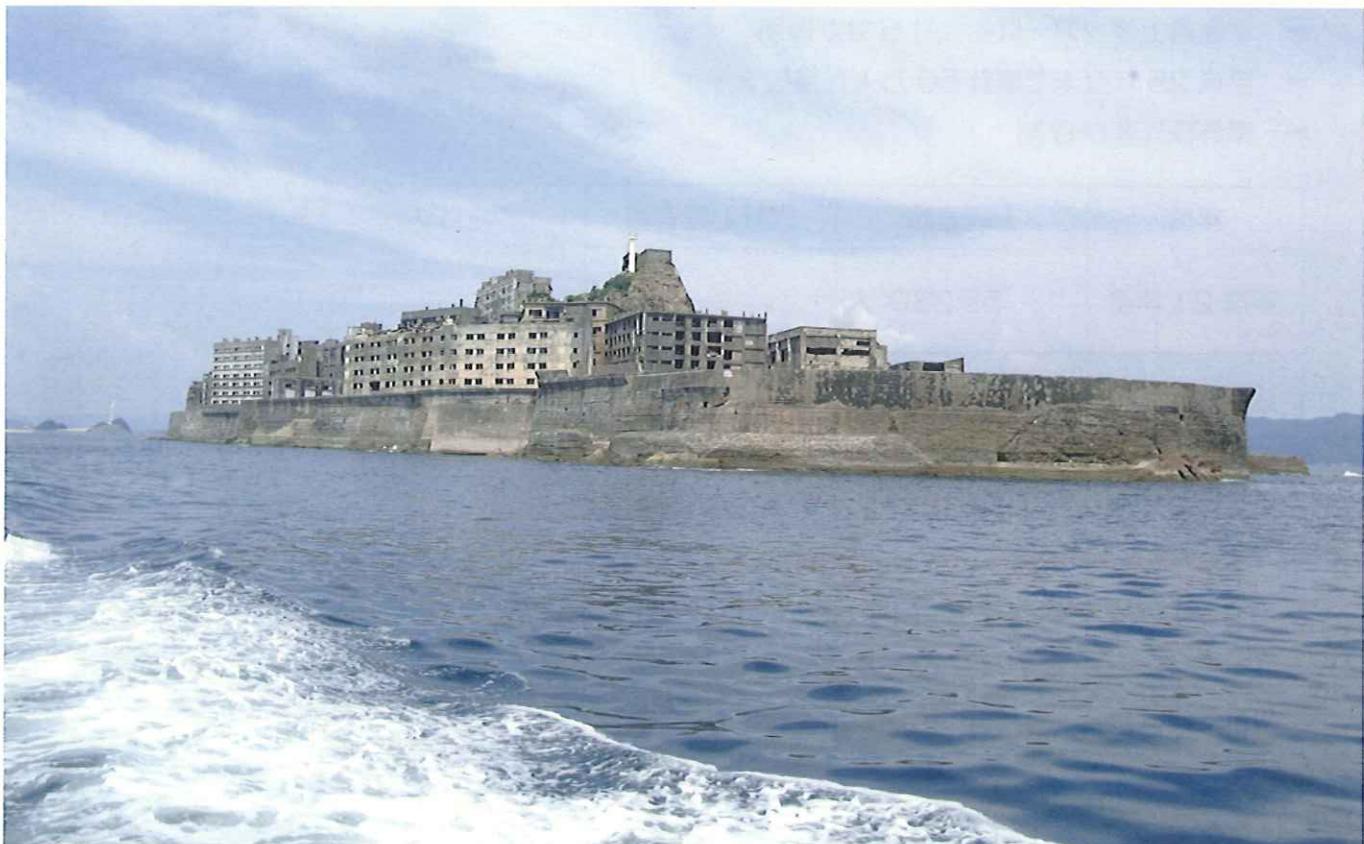
8. 観察ルート

① 船内説明



- 6 -

現況写真 ① 海上から見た端島



- 7 -